

育ちの森 子ども支援室「ぬっく」

活動レポート

2021年 3月

梅や桃の花も咲き、春の訪れを感じる今日この頃となりました。令和2年度は「新型コロナウイルス感染症」により、様々な環境の変化で子どもも大人もストレスを感じたことが多かったのではないのでしょうか。子ども支援室では1月末までの相談件数は約2600件、実人数は約330人の方が利用されました。子育てや発達についての相談、登園・登校渋りに関する相談が多くありました。保護者の方や子どもたちの困り感に寄り添い、少しでも子どもたちが自分にあった環境で健やかに成長していくためのお手伝いできればと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2020年度子ども支援研修会

今年度はZOOMと会場での開催となり、2回の研修会に合計約300人の幼保小中の先生方が参加してくださいました。今後の支援につながる大切な機会をもつことができました。

11/19「LD（限局性学習障害）のある子どもへの支援・指導について

～読み書き障害を中心に～

NPOフューロLD発達相談センターかながわ所長 安住ゆう子先生

「『そこは苦手だからゆっくりやっつけていこうね』というスタンスでその子の力が発揮できるようなよきサポーターでいましょう」とお話をいただきました。配慮・支援として教室でできることをいろいろと紹介していただきました。



〈参加された方々の感想より〉

「読み書きの子どもの困り感を少し体験でき、本当に大変な思いをしている子どもたちのことがよく分かりました。」「幼稚園のうちでも音韻認識を育てる遊びを教えてもらい、とても参考になりました。」「読みが苦手な子にはふりがなやスラッシュを入れたり、書きが苦手な子には板書範囲の限定やワークシートの活用、宿題の範囲や提出方法を検討したり等、支援方法をいろいろと教えていただきました。」「学校にいながら有意義なお話を聴講できありがたかったです。」

1/29「子どもの多様な特性に応じた配慮」

星槎大学大学院 教育実践研究科 阿部利彦先生

多様な子どもたちの学びにくさや課題及び支援について分かりやすくお話をいただきました。「多様な選択肢を準備して子どもの自己決定や自己選択を尊重していく配慮が必要であること」「あなたの居場所がここにいつでもちゃんとあるよと示すこと」が大事と教えていただきました。

〈参加された方々の感想より〉

「子どもの気持ちを言語化すること、見通しを持てるように視覚教材を工夫することなどの大切さを改めて感じました。」「どの子も見通しをもてる環境、肯定的な言葉で伝えることを特に意識しながら保育していきたいと思いました。」「研修会を通して支援する側に知識がないといけいなど改めて感じました。」「多様な子どもたちがいる中で何が学びにくさの原因になっているのか見つけ、少しでも原因となるものを取り除いたり対応したりしていけたらなと思いました。」

